

玉野市立学校適正規模・適正配置検討委員会 第7回会議 会議録（要約）

■日時 令和5年8月9日（水）15：00～17：00

■場所 玉野市役所大会議室

■出席者 ○委員 14人

金川 舞貴子委員長 栗林 太一郎副委員長

中島 正人委員 木津 直美委員 森 幸絵委員 大内 雄一郎委員 西宇可奈子委員

兼松 勲委員 今井 克則委員 木村 俊一委員 諏訪 祐子委員 濱松 正江委員

三浦 康男委員 近藤 奈々委員

（欠席委員1人 浅浪 康延委員）

○事務局 5人

玉野市教育委員会教育長 多田 一也 教育次長 小崎 隆 教育総務課長 琵琶 学

教育総務課課長補佐 清山 智保、学校教育課課長補佐 高木 文彦

○教育委員（オブザーバー） 3人

教育長職務代理者 三宅 英次 委員 太幸 実千代 委員 横山 純子

■傍聴者 12人（うち報道関係者3人）

1 開会

事務局： 要綱第6条第2項により、委員の半数以上が出席しているので、会議として成立することを報告する。

2 議事（要綱第6条第1項に基づき、金川委員長が議長となる。）

（1）第5回会議録の確認について

委員長： 今回の会議についても公開とするが、よいか。（委員了承）

事務局： 議事録は事前に内容を確認いただいている。改めてお気づきの点があればご指摘いただきたい。（特になし）

（2）中学校適正規模化の具体的な方策について（前回会議の続き）

委員長： 前回、玉野市の目指す教育の実現に向けた中学校の適正な数について検討した。具体的な数について検討した結果、中学校の数を3校にする場合、2校にする場合という意見が出た。その中で、1つ検討事項として八浜中学校をどうしていくのかということが残っていた。東（地域）に1校、段階を追うのか、残していくか、人数にもよるが1校残すという意見があった。この段階ではどれかを選ぶというわけではなく、小学校との兼ね合いの中で検討していこうというところであった。その中で八浜中をどうしていくかについて、地区の保護者の意見を拾ってきてくれているということなので、検討する一つの材料として発表いただきたいと思う。

委員1 八浜中学校区の保護者がどう考えているのか気になったので、アンケートを実施した。1つは、「もし、山田中学校と東児中学校が統廃合されるなら」と

いう質問、2つ目は、「統廃合されるなら、東児中と荘内中のどちらの学校がよいか」である。回答率は、5割から6割くらいであった。

1つ目の質問の選択肢は、①八浜中学校は生徒数が減少してから統廃合を検討してほしい、②八浜中学校も同時に統廃合してほしい、③どちらでもよいという内容である。①68%、②13%、③19%であった。

2つ目の質問の選択肢は、①山田中と東児中と同じ中学校、②荘内中学校、③どちらでもよいという内容である。①43%、②23%、③34%であった。

委員長 5割、6割の回答という、決して低くない回答を集めてもらった。山田中、東児中、八浜中で統合するという案に半分くらいの保護者が賛成している。時期については、人数が減少してからという意見であった。これは当事者の生の声ということで今後検討していく一つの大きな材料となるのではないかと思います。今後も、委員の皆さんにはこのように生の声を拾っていただきたいと思います。

(3) 小学校適正規模化の具体的な方策について

委員長： 本日は、小学校の適正規模化の具体的な方策について考えていきたい。それに先立ち、もう一度我々が何を指して検討しているのかということで、諮問内容を確認したいと思う。(諮問書の読み上げ)

どういう教育が求められているかというものを背景に、どういう規模が必要なのかということは今一度確認してもらいたい。一番最初の会議で、現状でどれだけのコストがかかっているのかという財政面の指摘もあった。お金があればたくさん夢が叶えられるが現実的なこともあるので、それも踏まえた効果的な税金の使い方というところも合わせて考えてもらいたいと思う。検討に入る前に、我々がもう一度原点を確認する意味も込めて、もう一度、玉野市の目指す学校教育について説明してもらいたい。

事務局： 資料に沿って説明(資料2、資料5)

委員長： 国が目指す大きな方針を参酌しながら、玉野市独自の目指したい教育及びそこにおける課題についてかなり具体的にわかりやすく説明してもらった。我々も確認をしてきた教育面での課題、学校運営上、経営上の課題も含めて再度確認できたと思う。これを受けて我々はクラス替えができる2学級以上が目指したいところだと思う。今日のこの会議の目的は、小学校の適正な数や配置、そこに至る時期を検討してもらいたい。何か質問があればお願いします。

委員2： 説明の中で、複式学級に子どもの学びの質において難しさがあるということがあった。実際に複式学級がよいというエビデンスはあるが、それに対して否定的になっている。玉野市として複式学級に挑戦しようとする意識が全く感じられない。複式学級を解消しようということが大前提としての諮問というのは問題があると思う。それが統合ありきの話になっているように思う。複式学級がダメだという感じの進め方はよくないと思う。複式学級に関しては、もっと先生たちが足りないからということや質を上げないといけないということではなくて、複式学級のよいところの論文を見ると、生徒の力を借

りて、少ない人数の中でも校長や教頭も携わって、学校で生徒を育てていく。協力し合うことが大事。生徒も巻き込んでやることによって教育に対する意識が向上して成績があがっていくこともあるというエビデンスがある。それも踏まえて、複式学級がだめだということではなく議論していきたい。

委員長： 議論の時間は取れないが、そのエビデンスがどこから出たものかを確認しないとわからない。1人が出されたものでのエビデンスというのはなかなか難しいところもある。複式解消を前提とした議論についてはどうなのかという意見であったが、今までの議論の中でも2学級以上くらいのクラス替えができるということを前提としつつも、小規模に配慮したことも考えられるというところで、2学級以上にするとということではなかったと思う。それも含めての今後の議論にもなってくるとは思う。教育効果ということに関して、事務局から何かあれば確認しておきたい。今のは規模が小さい、少人数での学び合いに意味があるということで、複式という制度を残す価値があるかどうかというところは私も疑問として聞きたいところである。小規模で関わり合いながら学んでいく、みんなで学校作りをしていくということは、多分皆さん賛同されていると思う。そこに複式という制度で残すということの意味合いはどうだったのかということも少し加えて、答えてもらえれば。それだから減らしたいんだということでもよいのだが。

事務局： 本市の現状ということで示させてもらっている。それ（複式学級）が駄目というわけではない。子どもたちの学びに関して、他校との交流なども含めながら、協働的な学びを行っていくのは一つの方法としてはあるが、より人との関わりという部分で、現在の状況ということで今回示させてもらっている。

委員長： 具体的に検討する中で、可能性として残していく、答申の中に盛り込んでいくこともある。そのことも含めて、こういうふう考えられるが、こういうところに配慮して考えてほしいといったところを、ぜひ挙げて検討してもらいたい。

（グループ議論）

グループ1： （委員1）基本的には、早急に短期間のうちに行った方がよいという意見が多かった。令和10年、20年の人数を見て、複式が出てくるというのでその意見が出てきた。統廃合が一番大切にしていかなければいけないのは、地域のことである。積極的に地域と学びをやっている小学校を参考にしていきながら、例えば鉾立、胸上、山田、後閑が統合するならば、どこの地域に対しても同じように交流を進めていけるような形でやっていけたらいいのではないかという話があった。

例えば、山田中学校区と東兎中学校区を義務教育学校を視野に入れて考えてはどうかという意見も出たが、将来的にはどんどん人数が減っていく方向ということで、小規模特認校として、学校の教育内容を充実させて、特色のある学校を作って、100人以下になっても、教育委員会や地域の方でしっかり考えてやっていけるのであれば、人数が少なくなっても、小規模特認校として残せるのではないかという意見も出た。

複式学級に関しては、複式がエビデンスがあってすごくいいというのであれば、統廃合した中でも、各学校で、複式学級でよいとされていることを異学年交流や少人数グループを作って活動して、複式の良さを生かした教育方法を盛り込むことで、複式の良さを残していくことが大切なのではないかと思った。

もし、地域の方が、学校を潰して欲しくないから「複式が良い」と言っているのであれば、それは本当に子どものためなのかなと思う。複式は複式の良さがあるのであれば、いろいろなやり方ができるのではないか思った。

統廃合するにあたって、保護者が心配しているのは、通学的手段と安全面である。そのあたりをしっかりと考えていけば、統廃合する際に保護者が納得できるような説明や進め方ができるのではないか。地区の保護者は、人数が少なくなってから統廃合してほしいという人が7割近くいた。以前PTAの会長会議でも柴田市長が、中学校は早い段階からやっていけばよいが、小学校は地域のことを考えて地域に合ったタイミングでやっていきたいと言っていたが、私も同意見である。基本的には早く実施してあげた方が子どもたちのためになるのではないかという意見が多かった。

委員長： 何校という形になったのか。

グループ1： (委員1) 6校だった。

グループ2： (委員3) 前回の続きとして、適正規模の中学校が2校、小規模の中学校が1校というのを元に、小学校をどう配置するかを考えた。適正規模の中学校の下に、適正規模の小学校が2つ、小規模の中学校の下に小規模の小学校が1校という案を考えた。具体的にどこの学校とどこの学校をどうするかということは、答申の中では触れず、教育委員会で考えてもらえればよいと思う。小規模中学校が、東兎中学校である必要はなく、場合によっては、山田中学校や八浜中学校になることもあり得る。小規模の小学校が鉾立小学校である必要はなく、後閑小学校でもよい。そのあたりは教育委員会で考えてもらえればよい。小規模な小学校、中学校には、市内どこからでも通えるようにする。そのために、通学手段としてはバスが必要である。小規模の小学校と中学校のところを義務教育学校という可能性も検討してもらえたらよい。あとの適正規模の小学校、中学校はどのような形がよいか分からないが、義務教育学校に必ずしなくてはいけないという考えではない。そういうことを話し合った。

閉校した校舎については、防災の拠点であるとか、その後どういうふうを活用していくのかを答申の中で触れてもらいたい。統廃合する前には、子どもたち同士の交流の場を大切に、安心して1つの学校になっていくというステップは踏んでもらいたいという意見が出た。通学の面が一番心配である。玉野市は昼間でもイノシシが出没する。夜だけでなく昼間も出てくる。そこを歩いて行かせるのは心配である。そういったことで、通学的手段にバスというのは考えていかななくてはいけないと思う。

今は第1段階の話として、既存の校舎を使って統合を乗り越えていく。さらに人数が減って、第2段階として、新しい敷地が確保できて、校舎を新築していくという将来のステップにつなげていかななくてはいけない。今の財政で

今の現実で、どんなに早くても実施までに2年はかかるというのであれば、第1段階は、適正規模の中学校を2校、小規模校を1校、適正規模の小学校を4校、小規模の小学校1校を残すところからスタートする。第1段階、第2段階ということを意識している。さらに人口が減っていくわけなので、それに向かってどういう体制を整えておくか。玉野市のどこに住んでいても、希望が持て、平等な教育を受けることができる場所に持っていく必要がある。

委員長： 確かに新しく斬新なものを考えていくということは将来あり得ると思う。どこというわけではないが、数としては、小学校5校を残していくという考え方であった。その後の施設の活用の問題。地域を大切にするという観点を考えてときに、学校ではなくても有益なものとして活用してもらいたいという。前回は新しい学校としてスタートを切るという話があった。そこに至るまでの先生と子どもたちの意識や準備も非常に重要になってくる。

委員3： 付け加えるとしたら、統合したときは、学校名はすべて新しい名前にする。

グループ2： 新しいブランドを作っていくという感じかもしれない。前回は段階的に統合ではなく一気にした方がよいという話があったが、後から来るとどうしても

委員長： 吸収するというイメージになってしまうことがある。

グループ3： (委員4) 小学校は今回6校ということになった。先ほどのグループと同じように、名前やどこの校舎を使うかというのも地域に合わせて決定していくべきだと思うが、仮に、宇野中学校を南中学校とすると、田井小1校プラス後閑の一部も入るかもしれない。宇野と築港が統合して1校、玉、玉原、日比、二日比で1校、東中学校を東兎中学校で、鉾立、胸上、山田、大崎、八浜小学校で1校とする。西中学校として荘内中学校で、荘内小プラス玉原小の一部も入ってよいと思う。

小学校の学区は、既存の校舎を使うとしたら、今の学区だとふさわしくない地域が出てくると思う。後閑は、田井がいいところと、東の学校がいいところがある。築港も田井が近いところと宇野が近いところもある。玉原も玉が近いところ、荘内が近いところがある。もう少し柔軟に考えてもよいと思う。学区を指定されたところ以外のところにも行くことができるという制度は継続して、より緩やかに考えて選択できるようにしていくべきだという意見が出た。

通学については、国の基準で、4kmや1時間という線引きがあると思うが、基準より緩やかなものを玉野市独自の基準として作っていくとよい。子どもたちの安全を確保していくということや、玉野市はこの距離でもバスが利用できるという特色にもなっていくのではないかという意見が出た。バスを利用する地区が増えてくると思うが、個人的な意見としては、子どもには出来るだけ歩いてほしいという気持ちもある。運動能力の低下も叫ばれている。歩けるのであれば歩いてほしいし、それで学ぶこともある。例えば、バスを利用するとしても、バスを乗るところまで1km程度は歩くということになるとよい。

委員長： 新しい観点の考え方があった。通学に関しては、距離などは柔軟に考えるという意見であった。体力面を考えたアイデアであった。

グループ3：（委員4）現状、保護者が送っている人が多いということを聞いた。現状では、送ることがよいとされていない。通学路に車が入ってくると危ないとか、スクールゾーンで時間によって入れないこともある。保護者が送迎する方がよいという人もいると思うので、送迎ができるための場所も確保することが必要であるというような意見も出た。

委員長：先を想定した具体的なところも検討していただいた。このあたりも原案として盛り込みながら考えていけると思う。今でも学区の柔軟な変更ができる制度はあるので、そこは残っていくのだろうと思う。3つ並べてみてはどうか。グループ2の適正規模の4校は、具体的にどこというのがあるのか。

グループ2：（委員3）そこを答申の中に盛り込むよりは、他のグループの意見で出たようなあたりで柔軟に考えていけばよいと思う。あまりそこにこだわり過ぎるのもどうかと思っている。現実すでにいろいろな学校に通っている。地域性が強いが、地域もこれから変わっていく時代になる。そういうことでも柔軟に考えていく必要がある。

委員長：玉野の子どもたちはみんなで育てるということで、カリキュラムを実施していく中で、それぞれの地域の良さをどう教材化して、授業し、残していくかということにかかってくる。まさに地域に開かれた教育課程ということで進めている部分である。そこを現実的にきちんと玉野全体を網羅していくものを作っていくようにしようということのを盛り込んでいけるかと思う。

複式に関しても、価値を盛り込んだ実質的な教育をどうかということである。むしろエビデンスの中身の良さが盛り込める部分があれば、盛り込んでいけばよいと思う。教育の中身で、こういうことが価値があるからこういう教育の実現に向けて、この中でやってもらいたいというような感じで盛り込むことができると思う。複式の本質的な教育的価値はどういうところかというところになってくると思う。そのあたりが盛り込めれば良いものになると思う。

一度、答申の形としてまとめて、どこまで具体化していくか、このあと教育委員会が計画に落としていくこともあるので、答申の段階でどこまで具体性を盛り込むかというところを注意して考えなくてはいけない。事務局と一緒に答申案を作りながら考えていきたいと思う。

事務局：小学校の統合のタイミングについては、少し触れていただいたが、他の地域や学校はどうか。

委員長：早急にという意見もあった。委員の皆さんはどうか。

委員5：教育委員会でアンケートをとってもらったらよいのではないか。

委員長：教育委員会が実施すると、計画段階で、もう決まっているかのような印象を与えるのではないか。それはやめた方がよいと思う。

委員1：私の場合は、「もしこうなる場合はどうか」という仮定でアンケートを実施した。山田中、東兎中と統合がいいというのが43%で一番多かったが、八浜中が残って東兎中と山田中が来るならいいという人もいれば、東兎中に行かないといけなければ嫌だという人もいるだろうが、そこまで詳しくすると集約に時間がかかるので、大まかな意見が知りたくてこのアンケートを実施した。

委員長：本当に厳密に意向を反映しようと思うと、アンケートをきっちり作らないと

いけない。いろいろな可能性を排除したものを作らなくてはいけなくなる。エビデンスとしては使えなくなる。感触としては知りたいということであれば、地区で把握していただいて、皆さんの意見としてこの場に出して答申として盛り込むということによいと思う。

委員 4 : こちらのグループでも、小学校は中学校と比べて、複数学級ではなくて、単学級でもよいのかなと思うところもあり、使える校舎のこともあるし、地域のことも考えて、段階的にやるということも考えたが、日比で言うと、児童数の推移がこの通りに行けば、令和 17 年にまた再度複式化するということになる。例えばこの計画が進んで 5 年後に実行ができるということになったら、また 10 数年後に複式になるというような計算になる。将来のことも見据えて、一気に同じ段階でした方がよいと思う。アンケートを取ると、八浜地区と同じような意見が出ることは予想できる。この委員会の答申としては、適正規模化ということでそういう答申を出した方がよいと思った。個別の統合については、具体的に考える段階で考えてもらえたらよいと思う。

委員 1 : アンケートをとった理由は、中学校区の代表なので、地区の保護者皆さんはどう考えているのかを知りたかった。大体見当はつくのかもしれないが、こういう形で数字を出せば、もし答申案ができたときに、自分を守るわけではないが、代表としてどういうことを思っているのかが大切になってくると考える。

委員長 : もう少し時間を取らせてもらって、アンケートが実施できるのであれば、実施してもらって、次回もう少し時間をとって、もう少し議論したいと思う。当初のスケジュールでは、8月に答申を出す予定であったが、白熱した議論がされているため、もう少し時間をいただく必要があると思う。あと数回は必要かと思う。引き続きよろしく願います。

玉野の教育を考える会から意見をいただいている。読み上げる時間はないので、目を通してもらいたい。一部ピックアップすると、「議論の期間を延長する」ことについては、結果的に延長されているので、引き続き丁寧な議論をお願いする。「市民の方への地域説明会」については、地域説明会の形をとっての周知する難しさであり、その場で発言することが難しいという方もいる。実際器用な方ではない保護者の方が多い。この委員会としては、各地域でいろんな機会を捉えて、声を拾ってもらおうというふうにしようということが多分第 2 回目あたりで言ったと思う。実際、意見を拾ってきてくれている。今後もそういう形で意見を拾ってくることに協力願いたい。説明会については、必要があれば、皆さんと検討したいと思う。具体的な計画が出ているわけではないので、どういう説明ができるのか。本当に必要かどうかも含めて改めて検討したいと思う。「複式解消」についても、今回改めて玉野市が求める教育、課題は何かというところで検討していった。複式解消ありきではなく、教育的に考えるというところの意見が出た。実際、そういう内容を答申に盛り込んでいく方向になっていると思う。盛り込んでいった方がいい意見があれば検討していきたい。